

中部太平洋方面部隊略歴

1400

才三十一軍司令部

(備七九二〇部隊)

年月日	概要
昭一九三、二七	横浜出帆 「サイパン」島に上陸す。
三、二〇	軍司令官は大宮島に移駐軍幕僚と共に二十九師団司令部内にあり、 陣地の位置(大宮島)
六、一八	米軍上陸時、大宮島、明石歩兵才四八旅団戦斗指揮所、 本田台高地
一九三七、二一	万貫山及本田台高地 平塚附近の旅団及才二九師団戦斗司令部所
七、二五	昭時通信洞窟戦斗司令部所
七、二六	戦斗の概要
八、四	敵米軍上陸、才二九師団作命に依り、才二九師団に復員、 軍司令部は宮川中尉外、本田台夜間攻襲に参加、 マンガン山到着、夜間籠攻襲に参加
八、五	
一九三七、二一	
七、二五	
七、二六	

(209)

1401

年 月 日	概 要
昭一 九七 二七	本陣台通信洞嶺に於て未襲せる敵戦車と交戦、司令部の命に依り、暮田山戦斗司令所に移動、敵と交戦す。
七、二八	高原戦斗指揮所に到着、オ三十一号司令部、小畑中将、田村少将の指揮下に入る。
七、二九	高原司令部通信洞嶺附近の決戦陣地構築作業に従事（オ二一七、二一八設営隊）
七、三〇	高原——平塚等の戦線よりの後退兵力の集結せり
八、六	敵高原戦斗指揮所攻撃のため、平塚より未襲、約六十名の戦死者を出せる。
八、七	同戦斗より敵の包囲内に在り、七月十三日に至り、同戦斗司令所も敵手に陥り、殆んど大部（分）戦死せり。

(210)

1402

三十一軍司令部 (兵器部)

年月日	概	要
昭一九、二、二七 三、二〇	司令部は横浜港出帆 サイパン島に上陸す 陣地の位置	
三、二二	ガラパン西南方高地	
六、一〇	ドンニエ地区附近高地	
七、二	地極谷陣地	
七、二		
七、四	マタンシヤ南方陣地	
七、四		
六、八	激斗の概要 頃より米軍の空襲、榴弾射撃は連日に亘り、益々熾烈を極め来りたるを以て、我師隊は一画、ドンニエ附近に後退集結を完了、之に備う。	

年月日	概 要
六、一四	<p>軍司令部はガラパン南方高地に移動するに共に、矢沢大尉を大隊長とする軍司令部直接警戒大隊を編成す。</p> <p>米軍チャロンカ附近より上陸を開始す。</p> <p>其間、我部隊は各部隊に対する兵器弾薬の補充に従事す。</p> <p>直接警戒大隊は戦斗司令所前方約五〇〇米の高地に在りて奮戦せるも、敵砲射撃の直撃を受け、柳原中尉以下八名戦死、河野中尉以下二十数名の負傷者を出せり。</p>
六、二〇	<p>遂に米軍は警戒大隊の正面に進軍し来りたるを以て、海軍部隊と協力奮闘せるも大数の戦死者を出せり、依て軍司令部はドシニー附近の軍通信隊陣地に移動す。</p>
六、三〇	<p>戦斗司令所及同部隊は米軍機甲部隊及、火焰射撃等の攻撃に遭遇も次第に損害を蒙り兵士半減す。</p>
七、一	<p>戦斗司令所は電信山に移動す。</p>
七、二	<p>戦斗利あらず、遂に後退地極谷陣地に移動す。同陣地に於て米軍は戦斗及び火焰射撃器に依る攻撃は益々熾烈にして約二〇〇名の戦死者を出し、本戦斗以後、志気漸次沮喪し後退の余儀なきに至る。</p>

ノの外

中部太平洋方面

P. 209 前とから

(2/2)



独歩三一五大隊

(備ヤ一七五二九部隊)

年月日	概	果
昭一九、六、一四	陣地の位置	
同日	サイパン島子ヤツチャ東海岸 米軍がラバン海岸より上陸を開始 我部隊は水際にて之を殲滅すべく奮戦す アスリート飛行場附近に於ける戦斗	
六、一五	「今ヤランカ」と「ガラパン」の中庭オレイアイ海岸の上陸戦斗	
七、一	「ヤランカ」に於ける戦斗	
七、三	「タツポ」附近に於て攻撃戦	
七、五	「ドンニ」海岸に於ける戦斗	
七、八	「コシタラボレ」に於ける攻撃戦	
七、一三	月鬼島に於ける戦斗	
七、一四	北部バナテル飛行場に於ける最後の籠攻撃に於て殆んど全員戦死の慘状	
七、一八	なり	

(214)

1406

独歩三二六大隊

(備ヤ一七五三〇部隊)

年月日	概要
昭一九、三、九 三、一〇	<p>横濱港出帆 サイパン島に上陸す 陣地の位置</p>
六、一	<p>チャランカ海岸よりヒナシス山に至る線 戦斗配備に就き同日より米軍は十三日に至る阿達日に亘り、空襲、艦砲射撃を以て猛攻し来り、我部隊に十数名の戦死者を出せり</p>
六、二四	<p>米軍は、チャラカ海岸より上陸を開始し戦車を先頭に我部隊の前方に現る。 我奮戦せるも約半数に亘る戦死者を出せり。 依て残存兵力を築峠、ヒナシス山に移動再編成により同日二十三日チャランカ反撃に出発 奮戦せるも遂に失敗に終り殆んど大部戦死す</p>

(215)

1407



独立歩兵第三七六隊

年 月 日	概 要
昭一九、二、二七	動員鬼結
二、二九	兼備龍省平海出発
三、一	朝鮮釜山着
三、一	釜山出発
三、九	横濱港着
一〇	同港出発
一九	サイパン着
二一	サイパン島東海岸テヤテヤ国民学校に大隊本部を置き、以後六月八日迄、イパン島東海岸の警備並に防務工事に従事す
六、一	サイパン島テヤランカ町海岸に於て、敵の空襲を受け、大隊は之を対空攻撃戦死者救下名を出せり
一四	敵はテヤランカ海岸より上陸を開始し、大隊は之と激戦せるも敵の勢力甚だしく、大隊長以下、約半数の戦死者を出せり、尔後小林中尉大隊長代理として大隊を指揮す

	年 月 日
<p data-bbox="1129 544 1169 663">七、一五</p> <p data-bbox="1129 725 1177 1585">大隊は戦斗能力を消失し、小林中尉以下二十数名を占れり。</p>	<p data-bbox="1209 824 1249 860">概</p> <p data-bbox="1214 1386 1254 1422">要</p>

(217)

1409

独立歩兵中隊三一六大隊  
 (備中一七五三大部隊)

年月日	概	要
昭一九、五、二二	現地大宮島に於て旅団内各歩兵大隊より各一中隊宛を以て編成し、尔後大宮島の防犯に策す	
七、二一	敵米軍の上陸を迎えて大隊は旅団予備として行動せると、同日以後中隊各大隊の急援に連日各方面に出撃奮戦し、二十五日以後残存兵力は僅少とを礼り、	
七、下旬	以後旅団各部隊残存者と合同し、同島北方密林地区に転進してゲリラ戦に移行せるも大部隊死す	

(218)

1410



独立歩兵第三二一大隊  
 (備カ一七五三八部隊)

年月日	概況	要
昭一九二 五、二二 七、二〇 二一 二二 二五 二八	歸成より入宮島到着後旅団の行動に向じ 嶺時歸成改正 以前大隊長は旅団の中内警備を担任し、福坪に面し陣地構築す。 敵は我が友翼正面に上陸を開始するや、兵団命令により大隊は河原主力 区以て該方面に移動し、随所に敵と激戦せるも後退す。 大隊兵力約五〇名と存す 旅団は總反撃を実施す。大隊は残存兵力を以て之れに参加せると之がた めに大隊長以下殆んど戦死す。 残存部隊はがりう戦に入りたるも八月一日最後の戦いに於て玉碎せり。	

その他

中部太平洋

独立歩兵才三二二大隊

(備才一七五三九部隊)

年月日	概
五、二二	編成より大宮島到着迄旅屈の行動に同じ
五、二二	臨時編成改正
二、三	以後大宮島富田湾地区守備隊として兵団の右翼として警備を担当す
二、四、上旬	兵団命令に依り大隊は築城既行の外飛行場設定を担当し、七月十日噴火を完了す
七、二一	敵上陸と共に之れを激戦
二、三	夜に至り才中隊は殆んど全滅す
二、四	大隊の本田白に移行
二、五	敵との遭遇戦に於て大隊長以下幹部殆んど戦死し残存隊長山中中尉の指揮に依り奮戦せるも兵力次第に減少し
八、三〇	殆んど全員戦死せり

(221)

1413



年月日	概 要
	<p>左記</p> <p>国作命甲ヲ四八号其の一(将作命甲ヲ一四七其の一)</p> <p>才五三六部隊命令 二月二十三日一〇〇〇 平 陽</p> <p>一、「ロ」号演習参加の爲訓才ニ五五一部隊の編成次第を命せらる。</p> <p>編成別紙の如し</p> <p>二、才一八〇・九六〇・六二二部隊長は前項部隊を編成し、岡大佐の指揮に入らしめ関東軍總司令官の直接隷下に入らしむるものとす。</p> <p>三、前項部隊の隷属及指揮権移の時枝は〇〇の出發の時とす。</p> <p>四、鉄道輸送に關しては関東軍野戦鉄道隊長之を処理し細部は別に示す。</p> <p>五、細部に關しては国守登才一エの号に執るべし。</p> <p>下達法 予め部隊長に要旨を口達したる後命令受領者に仰副せるものを交付</p> <p>配布先 70 872 180 760 622</p> <p>国作命甲ヲ四八号其の別紙</p> <p>訓才ニ五五一部隊</p>



女の木

中野大

年月日	概要
	<p>長 陸軍大佐 中野大</p> <p>ガニ十五番兵団司令部</p> <p>歩兵ガ十四連隊ガ三大隊</p> <p>歩兵ガ四十連隊ガ三大隊</p> <p>工兵ガ二五連隊ガ三中队</p> <p>派遣隊通称号</p> <p>ガ一派遣隊 訓ニ五五一</p> <p>連隊内に於ける各本部中隊<small>之に準ずる</small>の通称号は各本部中隊毎に其の長の姓を以て稱呼す</p> <p>固作命甲ガ四八号其のニガ五三六部隊命令</p> <p>二月二十五日一〇〇〇</p> <p>早 陽</p> <p>一、トロレ号演習参加の為訓ガニ五五一部隊の編成派遣を命ぜらる</p> <p>編成別紙の如し</p> <p>二、中野大は前項部隊を編成し関東軍司令部の直接隷下に入るべし</p>

(224)

年月日	
概	<p>但し隷下外部隊より繰成せらるべき部隊は〇〇に於て貴官の隷下に 入らしめる</p> <p>〇〇出発後 〇〇指揮下に入るべし</p> <p>三、前項項部隊の隷属並に指揮転移の時機は〇〇出発の時とす</p> <p>四、鉄道輸送は南東軍野戦鉄道隊長之を処理し細部は別に示す</p> <p>五、細部に關しては園村三松一〇〇号に換るべし</p> <p>下運波 要旨口達後印刷交付</p> <p>交付先 70 257 272 180 760 622</p> <p>国作命甲ヲ四八号其の二別紙</p> <p>訓ヲ二五五一部隊</p> <p>長 陸軍大佐 岡 芳 郎</p> <p>ヲ二十五歩兵団司令部</p> <p>歩兵ヲ十四連隊ヲ三大隊</p> <p>歩兵ヲ四連隊ヲ三大隊</p> <p>歩兵ヲ十連隊ヲ三大隊</p>



年 月 日	概	要
二、二五	<p>カ二十軍司令官兼用部隊の軍装検査を実施せらる。</p>	
二、二六	<p>出 巻 カ二十五歩兵団司令部、一九五九平陽巻、歩兵カ十四連隊カ三大隊（カ十二中隊、カ三機関銃中隊、カ三歩兵小队、速射砲小队を除去）</p>	
三、一	<p>満道巻歩兵カ十四連隊、カ十二中隊、カ三機関銃中隊、カ三歩兵砲小队、速射砲小队</p>	
三、二七	<p>一〇二〇満道巻、歩兵カ四十連隊、カ三大隊、工兵カ二十五連隊、カ三中隊、二月二十七日〇七一七平陽巻</p>	
	<p>出巻時輸送業務処理の主任参謀武内少佐勤員主任将校前野中尉を平陽巻に派遣す。</p>	

(227)

1419

年 月 日	概  要
	<p>人員物件の充足の概況特に部隊戦力に關係ありと認むる事項</p> <p>一、オ二十五歩兵団司令部備成人員物件 差出区分附表オ一の如し</p> <p>二、歩兵オ十四連隊オ三大隊 歩兵オ四十連隊 オ三大隊 工兵オ三十</p> <p>五連隊、オ三中隊は建制六(中)隊を基幹として不足人員は備成担任部</p> <p>隊より充足するに勉む</p> <p>三、戦用部隊の人員の充足は況附表オ二の如し</p> <p>四、戦用部隊に要する戦用品は乗船地に於て交付を受くるものを除き完</p> <p>備す</p> <p>五、判決</p> <p>小隊長の一部を准尉若しくは上級兵曹長を以て充足し在るも戦力の総</p> <p>揮に支障なきものと認む</p> <p>六、戦用部隊持兵志気旺盛にて出発せり</p> <p>計画と実施の差異及之に對し採りたる処置</p> <p>計画と実施との差異 採りたる処置</p>

(228)

1420

年月日	
概	<p>一、コリヤカール整備 一、最寄補給諸廠に現品なき為将来準備給監に に勿めたるも現品なき為請求し来給地に於て交附を受くる如くす。 さ為整備せず</p> <p>計画実施に關し将来の改善資料となるべき意見</p> <p>一、今次編成の如きは戦用部隊の戦力充実に遺憾なきも戦用部隊戦用後 の主力の戦力は相当低下するを以て編成下令後本後の方針及人員の補 充戦用諸品の充足等に關する具体案を引続き明示し本後の作戦準備を 速みに完了せしむるの要あり</p> <p>二、戦用部隊戦用後の人員状況別冊人員表(三月一日現在調)の如し</p> <p>三、戦用部隊戦用後の昭和十九年度動員計画上の戦用諸品の顯示不足状況 別冊戦用諸品不足表の如し</p> <p>其の他</p> <p>一、戦用部隊の編成要員別冊の如し</p> <p>二、戦用部隊持校職員表は国府三発カ一四五号を以て提出せり</p>

(229)

1421

独立山砲三連隊

(番号二五五一部隊)

年月日	概
昭一八、三、八 一九	横浜出帆 サイパン島に上陸す 部隊の位置 内訳 歩兵三ヶ大隊、重砲、山砲、野砲、各一ヶ大隊 工兵一ヶ中隊 歩兵一ヶ大隊 (バカン島駐屯) 江頭大隊 (ナフタン岬からオレアイ飛行場まで) 一ヶ大隊 (ナフタン岬からチャチャまで) 混成大隊 (チャチャよりドソニーまで) 野重砲大隊 (タツボ頂下よりアスリート飛行場まで) 山砲荒砲大隊 (一中隊はナフタン岬、二中隊はチャランカ町、三中隊は、ラブラル湾よりアスリート附近) 野砲大隊 (戦闘指揮所よりアスリート附近)

(230)

1422

年月日	概	要
六、一四	六、一四	<p>工兵大隊 (戦闘指揮所よりアスリート附近)</p> <p>部隊本部 (コーヒ山附近)</p> <p>戦闘の概要</p> <p>至る所、米軍の熾烈なる空襲、艦砲射撃に依り海岸陣地は猛烈なる攻撃を受け、ガラパン町、チャランカ町、等々多大の損害を蒙るに至る。</p> <p>早朝、米軍は海空よりする猛攻と共に上陸用舟艇を以て第一回の上陸を開始するも、我部隊の反撃に依り失敗に終り、其後数時間亘り艦砲射撃の為、漸次多大の損害を蒙るに至り、午後二時頃に至り、遂にオレイ飛行場附近より強行に上陸を開始し、主隊は、アスリート飛行場に、一隊はガラパン町方面に前進す。</p> <p>米軍主力は、チャランカ町附近より、コーヒ山附近に進出し来るを以て、我部隊は之と激戦せるも、大部の戦死傷者を出し、江藤部隊及、山砲二中隊の残存兵力は、後方なる戦闘指揮所に移動す。</p> <p>コーヒ山の高台に據り、米軍と激戦せるも、米軍は次々に兵力及戦車を増強し加うるに、海空よりの熾烈なる攻撃に会い、我部隊は多大の損害を蒙り兵力、弾薬は消耗し、各隊との連絡は杜絶せるを以て、遂にタッポ山</p>
六、一五	六、一五	
一七、八	一七、八	
一六	一六	





独混 四七旅団砲兵隊

(拂才一七五三三部隊)

年 月 日	概  要
昭一 九三 一一  一九   六、一 一 一三  一四	<p>横濱港出帆、 サイパン島に上陸す。 陣地の設置 「ナヤランカ」より「ナヤツナヤレ」に至る線 戦斗の概要</p> <p>に至る間の米軍の海空よりする攻撃に依り、ガラパン、ナヤランカ方面に於ける配備部隊は殆んど全滅に近き損害を被る。</p> <p>午右上陸を開始し、我部隊は水際にて激戦すべく激戦の後、ガ一回上陸を阻止せるも、敵の海空よりする攻撃は益々熾烈にして、我重火器は、其の大半は使用不可能となり、遂に米軍は上陸進軍する所となり、我部隊は之れと激戦しつつも利あらず、ゴ、ヒ山より電信山タマンシヤ等、戦斗に逐次後退の止むなきに至り、</p>

(233)

1425

	年 月 日
7-8 リ 遂に必部パナデル飛行場に移動残存兵力を整備、最後の総攻撃を敢行せ 本戦斗に於て殆んど全員戦死す。	概          要

高射砲二十五連隊

(備カ一七五八八部隊)

年 月 日	概 要
昭 一九 三、一 二	横濱出帆 に亘りカイパン島に上陸す。
二二一 -〇九	陣地の位置 アスリート飛行場及タッポー山 戦いの概要
六、一	米軍の海空よりする熾烈なる攻撃に依り村木伍長以下数名戦死
一三	米軍アスリート海岸より強行上陸を開始せるや以て、我部隊は之れと十 五日亘る固奮戦す。
一四	本戦中に於て、中尾中尉、鈴木少尉、外通信班、ガ六中隊(遠藤隊)は 殆んど大部戦死の模様なり
一五	漸次後退、タッポー陣地に移動。

(235)

1427

年月日	
概  要	<p>六、二八 七、五</p> <p>残存兵力はドンニ一附近に集結し、連環する敵と激戦せるも部隊長始め 中三大隊長、中村大尉等、大部が戦死す。 地獄谷の戦斗に於て、磯部中尉、田丸、榎本、角本、各少尉外、殆んど 全員戦死と認めらる。</p>

7. 5  
P.P. 1. F.F.

野戦機銃隊第四十中队

(備中二〇〇部隊)

年月日	概	要
昭一九、三、二七	宇治出陣 三月五日 サイパン島上陸 陣地の位置	
昭一九、六、一	「カラバン」と「アスリート」飛行場の中間山腹に沿し陣地に布陣す 戦いの概要 米軍はサイパン島に對し、熾烈なる空襲及艦砲射撃を以て攻襲し來り、 我機銃隊は大隊を以て交戦、手持弾薬一石巻の中、約一千発近くの 弾薬を消費せり。当日敵機を撃破す。 米軍第一線は、サイパン神社方面より戦いを以て攻襲し來り、中隊陣地 は其まゝ軍司令部の援護に任じ、最終迄「イバン」島の対空部隊として防護 を続行す。	
一八	敵艦砲直撃弾通行線に命中、三名戦死、四名負傷せり。	
二八	敵第一線戦いを以てサイパン神社方面より攻襲を加え來り、中隊の対戦 斗攻撃に移るも、追撃砲の迫りに依り第一分隊は分隊長以下戦死 中隊長は残存兵力、兵巻と共に懸信山陣地に移動せり、其間二十数名の	

	年 月 日
<p style="text-align: center;">七 回</p> <p style="text-align: center;">戦死者を 出さず 負傷者は サイパン港 夕ピオカ 澱粉工場に 収容 残存兵士 を以て砲 台山陣地 死守戦に 於て殆ど 全員戦死 せり。</p>	<p style="text-align: center;">概</p> <p style="text-align: center;">要</p>

(238)

1430

独立自動車二六四中队

年月日	概略
昭二九、四、二六	サイパン島に上陸す 陣地の位置 南がラバンヤニ国民学校
六、一三	ドンニ一に移動す 戦斗の概要
六、一 一三	米軍は激烈なる空爆及び機砲射撃を以て連日攻撃し来る。 ドンニ一陣地に移動し、タツポー及ガラパン方面に於ける部隊に対し、 弾薬、水糧食等、輸送に務む。
六、二四	其間、十数名を失う。
二五	米上陸部隊と交戦しつゝ、オ一戦に向け弾薬、糧食の補給を続行す。
二八	オ一に後退の余儀なきに至り、 上ドンニ一に移動約二十数名を失う。
七、一	霞岨山より地極谷に移動、三車輛を残しのみにて殆んど破壊せられ残存



その他

年月日	概要
七 三	兵力わずかに四十数名となる 車輛全部を破壊し、隊長以下殆んど全員戦死す。

(2/11)

1432

独立混成四十八旅団司令部

(備中一七五三五部隊)

(陸三五五六部隊)

部隊長

重松少将

年月日	概	要
昭二九 六、一	旅団司令部は、肥後台に位置し在りしが、敵本格的空襲開始に伴い、	各隊長を兼ね、戦斗指揮に關する打合せ、及訓令を行ふ。
七、一	高松副官、福壽少佐は、パラメル台マンガン岩の戦斗に於て戦死す。	同日司令部は本用台南側田地に移動、的野山麓にありて、高田守備隊(
七、一四	カミ大隊)を本用台に配備	司令部はマンガン山に移動、今日旅団長以下各部隊と連絡を決定し、本
二	戦斗に於いて、北沢軍団大尉以下司令部持枝下士官及兵、大部戦死、	是最後の総攻撃を敢行、旅団長以下大部戦死、残存者中村少尉以下三
三	司令部はマンガン山に移動、今日旅団長以下各部隊と連絡を決定し、本	戦斗に於いて、北沢軍団大尉以下司令部持枝下士官及兵、大部戦死、
三、一四	司令部はマンガン山に移動、今日旅団長以下各部隊と連絡を決定し、本	戦斗に於いて、北沢軍団大尉以下司令部持枝下士官及兵、大部戦死、
三、一五	司令部はマンガン山に移動、今日旅団長以下各部隊と連絡を決定し、本	戦斗に於いて、北沢軍団大尉以下司令部持枝下士官及兵、大部戦死、
三、一六	司令部はマンガン山に移動、今日旅団長以下各部隊と連絡を決定し、本	戦斗に於いて、北沢軍団大尉以下司令部持枝下士官及兵、大部戦死、

年月日	
概要	<p>名。          右中村少尉以下三名折田に戦進、旅用通信隊、兵器修理班、自動車班、残存者を合し約四十名となる。買戻り、春田山戦進、大川少佐の指揮下に入る。春田山の戦いに於いて、中村少尉以下殆んど戦傷死</p>

(242)

1434

独混四八旅団通信隊

年月日	概要
七、三二	<p>一部をロク夕島に派遣、主力は液田町連絡に任ず、敵上陸と共に、鎌倉少尉は無線小隊（長、青口准尉）を率え、旅団司令部と同林各部隊との有線無線連絡を確保。</p>
二五	<p>有線小隊（長、金丸少尉）は本田台南側に在り司令部並に各隊との連絡を確保一ヶ分隊、機関銃連隊に依り全滅。</p> <p>有線無線器材大部分破壊せられ、各部隊との連絡不通となり。</p>
二六	<p>同日鎌倉少尉以下八十名は司令部と共に夜襲敢行、鎌倉少尉以下大部戦死、残存者、佐伯伍長以下約二十名。</p> <p>夜最後の總攻撃敢行、残存者、佐伯伍長以下約十名。</p>

(243)

1435

独混四八旅団砲兵隊

年月日	
概	<p>砲兵大隊の配備</p> <p>本 部 明石台工</p> <p>第一中隊 鬼崎岬 (2)</p> <p>          茂木 (1)</p> <p>          密岡 (2)</p> <p>          明石 (2)</p> <p>          岡 岬 (1)</p> <hr/> <p>第三中隊</p> <p>          茂木岬 (1)</p> <p>          肥后 (1)</p> <p>          密岡 (1)</p> <p>          明石台工 (2)</p> <p>          富田湾 (3)</p> <p>          甲 田 太尉</p> <p>第三中隊 コロタシ島に派遣</p> <p>敵上陸と共に、大隊本部は明石台に於て指揮す。明石台にありて (1)</p> <p>を直接指揮し、マンガン山東側に至り、目的地に陣地を占領せしむ。</p> <p>マンガン山の敵戦車三を破壊す。本戦中に於いて、大隊長、副官、指揮</p> <p>班長以下殆んど斃死する。</p>
要	

7.の外

(244)

1436

年 月 日	概  略
	<p>カ一 中隊            敵上陸時見晴(2) 浅太(1)の砲は、敵母艇群を射撃中敵艦砲撃連地に命            中見晴岬及浅太岬に在りし、砲の何れも破壊せらる。中隊長益山少尉以下            殆んど全員戦死する。但し見晴の一分隊(明石湾に對し、火力配置)の            生存者は二十二日夜海中を游泳、明石に帰還せり、明石台工の砲兵は敵前            進に備え、二十七日迄該連地に在りつゝ射撃を続行す、敵迫撃砲弾により            小隊長武智少尉以下殆んど戦死する。</p> <p>カ三 中隊            見晴、肥后岬の各一内は敵に對し、射撃を続行、夕刻に至り敵艦砲撃に            依り破壊せらる。富田湾(2)を中隊長玉振中尉指揮し、マンガン山に向い            たるも本田台に陣地占領、七月二十五日敵の攻撃を受け、中隊長以下敵に            突入戦死する。</p>

(245)

1437

独立四八旅団工兵中隊

年月日	概 要
七、二一	<p>中隊は旅団四谷大隊に分属せられ、主として海岸陣地の構築に任ぜり。</p> <p>オ一 小隊 津島少尉（巻材分隊）</p> <p>三宅大尉指揮の下にオ二ニ廻属せらる。</p> <p>敵見晴岬に上陸するや、全員戦車隊となり、三宅中隊長、津島少尉以下敵に突入大卸斃死す。</p> <p>山川軍医中尉は右残存兵力を糾合ニ五名を自ら指揮して、マンガソ山に至り旅団長の指揮に入り該高地の攻襲に参加せらるも全員戦死</p>
七、二三	<p>オ二 小隊（古川大尉） オ十中隊（奏中隊）配属</p> <p>奏中隊は明石より兵キ勅隊は高地に在る。大隊長の許に報告を命ぜられ同夜敵北側谷地を前進中、ダム南側に於て、迫撃砲の集中射を受け村瀬准尉以下殆んど全員戦死す。</p> <p>（生存者 森本兵長以下四名）</p>

(246)

1438

10の内  
中野大平海

年月日	概要
七、二五	<p>森本天長以下はマンガン山麓反毒武田参謀と共に前進、本田白に至り、戦斗に参加す</p>
六、二一	<p>オ三 小隊 (井原 勝曹長)</p> <p>マンガン山野砲陣地構築中なりしが翌二十日敵空爆に依り、一分隊全員戦傷す、爾余は推進酒入攻毒隊となり、見晴岬東側基地附近の敵戦車を攻毒全員壮烈なる戦死を遂げたるものと判断す。</p>
六、二一	<p>オ四 小隊 (高木信春曹長)</p> <p>山砲大隊 (加藤大隊) に配属</p>
六、二一	<p>朝 井村密林に砲兵陣地構築</p>
六、二二	<p>前頃陣地に於いて、敵と交戦戦車に海攻大部壮烈なり戦死を遂ぐ。</p>
六、二三	

(247)

1439



野戦高射砲才五二大隊

年月日	概略
<p>昭一九、五、六</p>	<p>才一中隊（鈴木中隊） 大宮島に到着、富岡飛行場の防空に任ず、 須磨に転じ、石井大隊長指揮下に須磨飛行場の防空に任ず、 大隊本部及び才二中隊 満洲より大宮島に到着、陣地を占領し、大月初旬より才一中隊を併せ、 大隊の編制内に入る。 大隊は左港町海軍六〇防空隊と密に協力す。 敵上陸を開始するや、陸戦計画に懸き、鈴木中隊長は錦山にありしが、 敵艦砲射毒に依り、咽喉部に重傷を受く。 敵は戦車十数輛を以て錦山及其東北方大隊本部正面に攻出し、末り之れと 交戦、大隊長以下阿攻により殆んど全員戦死</p>
<p>七、二七</p>	
<p>一九、五、六一〇</p>	

のりん  
甲印六戸等

(248)

1440

才二十九師田司令部

年月日	概	要
七、二八	司令部は明石町南側台の上に位置したが、米軍上陸前その空襲激化したので肥後台南側凹地瀧嶺司令部に移動し次で上陸当夜より本田台南側谷地に龍反婁当日の七月二十五日夕より本田台戦司令部に移り二十八日迄核地を戦斗を指揮した。	千後師団長高田中将戦死、司令部参謀長以下幕僚、師団の大部戦死、当夜生存せるものは全員の約三割であった。
三〇	平塚に	同夜生存者は折田に集結し
三一	又、不山に移動し爾後該地に位置して戦斗を指揮したが、	同地の激戦に於て軍司令官、田村少将、橋田中佐を始め将兵の殆んど全部が壮烈なる戦死を遂げた。
八、一	教育總監部派遣教官	清水少佐、田桑少佐、大川少佐、今川少佐、は内地帰還不可能になつたので、清水少佐は師団高級副官に命ぜられ本田台にて戦死。

(249)

1441

	年 月 日
<p data-bbox="1082 555 1126 672">七、二八</p> <p data-bbox="978 703 1126 1792">           夜、田桑少佐は折田に後退中戦死、大川少佐は平塚附近の激斗より葉成            大隊長として奮戦、九月頃高原山麓側海岸地区で密林戦中戦死した。            今川少佐はワロタレ寺備隊長として該地に赴任した。         </p>	<p data-bbox="1161 835 1206 875">概</p> <p data-bbox="1161 1397 1206 1438">要</p>

(2.50)

# 歩兵第三十八連隊

年月日	概要
七、二一	<p>当該は昭和町海正面の守備に當って居ったが、早朝から開始された上陸戦斗では該地区は師団主力と隔絶して居たのと見晴岬正面と同時に戦斗が開始された為、当該は全く独力で戦斗を終始し激戦の連続であった。</p> <p>従つて七月二十一日、二十二日の海岸附近の戦斗で人員の約八割の損害を受け爾後のフェレンナ地区の戦斗で約一割を失つた。</p> <p>連隊本部 有羽山貯水池西北麓に位置して居ったが、夕刻迄該所に於て戦斗を指揮し、同日夜昭和町南側海岸に上陸した米軍部隊を攻撃する為の連隊長自ら陣頭に立つて夜襲し、その際連隊長以下大部戦死した。</p> <p>芥一犬隊（長、大塚大尉） 洲の時より番庄向の海正面を守備して居ったが</p>
七、二二	

概

要

(57)

年月日	概 要
七、二一	<p>早朝米軍の上陸開始と共に激烈なる戦いを展開し、大隊長以下大部の兵員を失った。</p> <p>僅か存生存者は夕刻集結して連隊長の指揮に入り、同夜海岸に向って反撃攻撃を行い殆んど全滅した。</p> <p>才二大隊（長 奥成大尉）</p> <p>当大隊は綿崎より洲の崎間の海上面を守備して居ったが、米軍の上陸後大隊長はアブラ黒次の中岡台上に在って戦いを指揮し、大原の大隊正面に上陸する米軍の側面を射撃し、次で、以右はその側背を攻撃し激烈な村戦を戦い続け、</p> <p>大原の全力を挙げて夜襲を遂行し米軍に大損害を与えたが、大隊もまたその必死以上の戦死者を出した。</p> <p>大隊長は同夜戦死し、生存者は天上山に後退し即ち主カと合同した。</p> <p>才三大隊（長、長尾大尉）</p> <p>当大隊は番匠崎初井崎間の海正面守備に任じて居たが、</p> <p>米軍の上陸後、大隊長は初井崎東側高地北側に位置して大原大隊正面に</p>
七、二一	
二五	
二二	
七、二一	

(282)

1444

年 月 日	概 要
七、 五 二七	<p>上陸した米軍の側面を攻撃したが連隊命令により同夜番庄崎の南側地区に避難し、敵中を突破して大混戦となり激戦の後大隊長以下兵員の約九割は戦死した。</p> <p>僅かな生存者は命令により、師団主力と合するため、フエンテに集結し、砲兵隊長、青木少佐の指揮に入る。</p> <p>ヤカ中隊（長、名井中尉）</p> <p>本田白北側パラソル高地の守備につき</p> <p>早朝から行われた上陸防禦戦には尾崎岬より上陸した米軍の側面を攻撃しその後連日激戦を繰り返し、毎日各中隊の兵員約三十名内外の戦死傷者を出したが、近迫する米軍に対しては地の利を利用して多大なる損害を与えた。かくして二十五日師団総反撃にはその側面を攻撃し、二十七日返同地区確保、戦いを継続した。兵員及兵器が破壊せらるゝに随い戦力も著と低下し</p> <p>命令により師団司令部直轄として本田台に集結した。当時の生存者約十五名であった。</p>

(253)

1445

年 月 日	概 要
二八	<p>命令により、折田後援隊結し、右集成分隊の中に在りて、平塚の戦いに参加した。</p> <p>砲兵大隊（長、青木少佐）</p> <p>当大隊は歩兵大隊の水際戦斗に及ぶる為、錦崎岩鼻洲の崎、番庄崎、昭和町東側高地附近及び東北側凹地に陣地を占領して居った。</p> <p>水軍の上陸と共に、先く水際戦斗に場力して、舟艇戦車五百五十隻以上破壊した。艦砲射撃のために逐次破壊せられ、同日夕には射撃は不可能となり、兵員の約九割は戦死した。</p> <p>大隊長青木少佐は、残存山砲三門と各部隊の生存者をオアシナに集め、箱屋を経て折田に集結せよとの師団命令を受け、</p> <p>部隊と集結して折田に陣進を開始し、自分は本田白の師団司令部と連絡して歸途戦死した。</p> <p>尔後大隊は師団後援隊に参加し、集成分隊の中で戦斗した。</p> <p>補給中隊（長、土屋大尉）</p> <p>フエーナ地区に在りて輸送補給の任務を遂行して居ったが、</p>
二二	
二一	
二三	

年 月 日	概  要
七、三一  二二  八、一〇	<p>上陸戦斗開始せられ、同夜の連隊命令により反響攻撃を行い約三〇名の戦死者を出し、約一八〇名を集結して折田に戦進途中、田崎——箱屋に於て米軍と交戦し又、箱屋附近に於て戦死者約五〇名を出した。尔後折田主力に合することが出発す、フアンナ地区に於て密林戦に入り逐次兵員を減少して終戦までに殆んど全員該地区で戦死した。</p>

(266)





